

## 「地域コミュニティに関する研究会」 (第1回) 議事概要

### ○日時

令和3年7月12日(月) 13:00~15:00

### ○会場

地方公共団体金融機構 会議室

### ○出席者

横道座長、伊藤構成員、清原構成員、佐藤構成員、水津構成員、日高構成員、  
深田構成員、湯浅構成員、

(事務局)

吉川自治行政局長、阿部大臣官房審議官、植田市町村課長、田頭課長補佐

### 【議事次第】

1 開会

2 構成員自己紹介

3 議題

(1) 開催要綱(案)について

(2) 地域コミュニティの現状及びアンケート(案)について

4 閉会

### 【議事概要】

○ 自治会・町内会と防災との関わりは重要である。阪神・淡路大震災の後には町会がないことが心細いという理由で新たに町会が作られた事例があり、東日本大震災の時には、在宅避難をする人も多く、地域の住民同士で安否の確認が行われた。日頃からの連携が防災時に心の拠り所となり、実際に共助の力として機能するものである。

○ 地域の連携は福祉の分野でも重要であり、例えば地域の居場所づくりにおいては、居場所を必要とする子どもや高齢者がいる一方で、これを支える側として、地域内の民間企業やNPO、大学の連携がある自治体もある。たとえば、子ども食堂の運営に地元の大学の教員や大学生が連携している事例もある。地域における多分野の組織の連携によって、支えられたい人と支えたい人のバランスをうまく保つことができるのではないか。

- 地域活動のデジタル化も重要なテーマである。デジタル化のメリットは情報を通知し、共有し、さらに次のアクションに繋げることができる点であり、近年、導入事例が増えている自治会等地域自治組織でのオンライン決済やWEB会議などは、その典型例である。今後、デジタル化の方向性として、高齢者や障害者にもわかりやすい「情報のバリアフリー化」を意識して、地域の様々な住民に発信することで地域活動全体の活性化に繋がると考えている。
- 第32次地方制度調査会の答申の中に、地域人材の確保・育成などが課題として挙げられており、地方公務員の兼業をしやすくして地域の担い手として活用する対応もあるが、この研究会でどの範囲まで議論を広げていくか検討が必要である。
- 自治会・町内会は地域コミュニティの世界では、いわゆる「老舗」だと思っている。一方でそれ以外にも多くの地域団体が存在している中で、自治会・町内会はあくまで地域団体の1つなのか、それとも地域全体のとりまとめ役なのか、その辺りの立ち位置を確認したい。私はそれぞれの団体がそれぞれの関心のあることに取り組むべきであり、役割の重複や不足があっても良いと考えている。絶対にこれが正しいと1つのパターンに決めつけて組織化したり財政支援したりすることには慎重であるべきと考えている。
- 地制調答申への制度的対応は認可地縁団体制度の見直しがあったが、その他の点については、市町村が地域の実情に応じて、担い手不足の解消などの課題解決に向けて取り組んでいけるようにすべきである。
- 地域コミュニティにおいて、自治会・町内会だけが特別な存在というものではなく、地域における役割を1つのパターンに決めつけることはできないのではないかと。自治会・町内会が地域の屋台骨と一般的に考えられてきた時期があったが、近年加入率が下がってきていることを踏まえると、その意識は薄まっていると感じており、NPOなどの自治会・町内会以外の団体が増えてきた現在においては、地域の様々な団体の活動において、役割の重複があっても良いのではないかと。
- 防災や高齢者の見守り、居場所づくりなど、現代に求められるニーズに対し、昭和以前の時代に立ち上がった自治会・町内会は適応できていない現状がある。自治会・町内会は今後も地域の主体になっていくと思われるが、現実的な対応として企業やNPOなど多様な主体が地域活動に参画していくべきと考

えている。

- 自治体の下請けのような役割を自治会・町内会が担っていることも多く、この関係性を見直すことが重要である。自治体は自治会・町内会だから支援するのではなく、防災なら防災、福祉なら福祉の実務を実際に担ってくれる団体に支援をすべきではないか。
- 行政が自治会・町内会に対し依頼をすることが多く、それが自治会・町内会の自主的活動の阻害要因となっている。今まさに、この関係性を見直しをするタイミングであり、今回のアンケート調査は有効なものとして期待している。
- アンケート案にもあるように定期広報物の配布などを含め、幅広い現状の見直しが図られるべきだが、これには二面性があり、そのバランスをどのように保つかが重要である。具体的には、行政の関与を弱めると自治会・町内会の自由度が増す一方で、公共サービスの担い手としての役割や意義が薄れ、結果として自治会・町内会の加入率の低下に結びつくことも懸念される。この研究会では、行政と自治会・町内会のあり方について1つの基準を示すのではなく、地域によって多様な姿があることを各自治体に知ってもらうことが良いのではないか。
- アンケート案の内容について、問6の選択肢1～3の違いがわかりにくいのではないか。有償での委託の場合、行政連絡員への報酬のようなものに委託料が一括して含まれているケースも想定されるため、回答者が迷わないよう、もう少し補足説明が必要ではないか。
- 自治会・町内会に期待する活動分野として防災・危機管理の割合が高いのは納得であり、私自身もとても重要だと思っている。これまで調査研究してきた結果、「声がけ」というのが避難の際に重要になると分析しており、避難行動を開始するスイッチになると思っている。今後、自治会会員同士で自主的に声がけができるようになってくると、防災・危機管理の面で効果が高まるものと考えている。
- 防災分野等の活動に寄与するデジタル化も重要な視点である。例えばデジタルを活用して安否確認を行うことなどが想定され、それ自体は有効だと思っている。しかし1点注意が必要なのは、日頃使われないシステムは災害時に使われないという傾向が強いことである。行政が防災分野にデジタルを導入

する際はこの辺りをどのように考えるかが重要ではないか。

- 地域コミュニティにおいて、自治会・町内会とNPO等のその他団体との関係性の整理は大きな課題だと思っている。両者を同じく扱うことは不可能であり、「均等待遇」ではなく、地域における「均衡待遇」を考えるべきではないか。NPOを自治会・町内会と同じように扱うことは無理でありNPOもそれを望んではいないが、無視されることはないようにすべきではないか。
- 大切なのは自治会・町内会か否かではなくて、平時・非常時を貫く人々の暮らしの安全を地域全体でどう確保するかであり、その時に自治会・町内会にしかできないことは何か、NPOにしかできないことは何かを議論することが重要だと考えている。そして、この議論の中で、あるべき「均衡待遇」の姿が見えてきたらよいと考えている。
- 東京23区で構成する特別区長会調査研究機構が昨年度地域コミュニティに関するアンケート調査を実施しているため、参考にしてみたいか。この調査では「コロナ禍」に絡めた自治会活動に関する設問があるが、「コロナ禍」というキーワードは、今回聞き取ろうとしている「基礎データの確認」、「変化するニーズへの対応」、「地域活動のデジタル化」をつなぐ重要な令和3年度ならではの地域コミュニティの状況を示すものと思っており、自由記入でよいので設問を追加してみてもどうか。
- 都内の一部で自治会・町内会が存在しないエリアがある。自治会・町内会がなくても行政がこれまでサービスを提供してきており何も困らないというのが現状である。いずれ行政の負担が増大し、機能しなくなることが予想されるが、その役割を自治会・町内会が代行することは難しいと思われる。その時、NPOの力を借りるべきであるが、自治会・町内会とNPOは現状ではうまく融合しないという現象が全国で起こっている。この原因を探るべきではないか。
- NPOは個々のテーマについて大切だと思っているし、自治会・町内会は地域でどれだけ汗をかいてきたかが大切だと思っており、両者の価値観の違いによりうまく連携できないのではないか。
- 全国の自治体では自治会・町内会とNPOが連携して事業をした場合に補助金を支出する取組や、マンションの管理組合と自治会・町内会が連携して安

全安心を創出する取組の事例があることから、自治会等を対象とする調査であるが、今後は他の関係組織との連携の在り方が重要な課題と考える。

- 自治会・町内会とNPOとの間でそうした補助金をもらうときだけ連携をする事例があり、やはり相互に共通の目的がないと連携を深めることは難しいと感じている。
- 自治会・町内会とマンションの管理組合との関係においては、実際の連携事例も把握している。調査によるとマンション住人の半数は災害時などの困ったときに誰も駆けつけてくれないことが不安と回答している。千葉市では自治会の集会所をマンション住人の避難場所として使ってもらう取組を企画し、多くの自治会の賛同を得たという事例があった。逆に東日本大震災の時はマンション内に地域住民を避難させた事例もあった。自治会・町内会とマンション住民の結びつきはお互いが求めていることであると言える。
- 熊本地震の際は行政だけとか施設管理者だけによる避難所運営は機能せず、逆に地域の結びつきの強いところは安否確認などが速やかに実施できた事例もある。最も市民の関心の高い「防災」をキーに、マンション住民を含めた地縁のネットワークを少しでも再生させ、普段の顔が見える関係を構築することで、共助の力を強めることができるのではないか。

以上